

昭和四十年五月二十七日招集  
第三面市議會臨時會々議錄



館山市議会第三回臨時会会議録

昭和四十年五月招集

一、五月二十七日（木曜日）

一、現在議員三十五名でその氏名次のとおり

一番	吉田 勇治郎	二番	鈴木 正一郎
三番	小 紫 孝	四番	館石 伝蔵
五番	田中 康郎	六番	秋山 大三郎
七番	田村 源治郎	八番	望月 照正
九番	安西 益男	一〇番	辻田 実
一一番	石井 正	一二番	黒川 佐太郎
一三番	菊井 敏博	一四番	志村 信作
一五番	小沢 恵太郎	一六番	関 武夫
一八番	西村 真次	一九番	藤田 好治
二〇番	保科 忠夫	二一番	江田 徳太郎

二番 君 塚 喜 三

二三番 中 村 省 吾

二四番 島 野 茂 樹 郎

二五番 荻 生 田 七 郎

二六番 鈴 木 孝

二七番 嶋 田 繁

二八番 山 田 教 宇

二九番 鈴 木 市 蔵

三〇番 安 藤 亀 吉

三一番 安 沢 徳 順

三二番 三 沢 節

三三番 高 橋 文 治

三四番 山 本 昇

三五番 松 本 藤 太 郎

三六番 山 口 康

一 議 事 日 程

第一 議 案 第 四 十 三 号 昭 和 四 十 年 度 館 山 市 国 民 健 康 保 險 特 別 会 計

補 正 予 算 ( 第 一 号 )

一 法 第 百 二 十 一 条 に よ る 出 席 説 明 員

市 長 本 間 護

助 役 小 出 武 男

庶務課長 山口 実

財政課長 長谷川 広治

保健衛生課長 池田 亮山

収入役 完戸 貴

収納課長 多田 俊一

一本議会で事務局長、局長補佐、書記及び取員

事務局 長 高梨 清一

事務局 長補佐 太田 博雄

書記 兵藤 恭一

取員 錦織 睦子

六出席議員 三十三名

一次出席議員 二名

午前十時十分 開議

議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数 三十三名

こゝより第三回市議会臨時会を開会いたします。

こゝ際御報告申し上げます。

本市監査委員において四月実施した創月検査報告書は  
お手元に配付の通りであります。

本臨時会が議案審議のため地方自治法第百二十一条の  
規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、  
戸収入役、山口課長、長谷川課長、池田課長、多田  
課長、以上が出席する旨の報告がございました。  
会議録署名員の決定を行ないます。

本臨時会が会議録署名員に一八番議員、西村直女  
君、二一番議員、江田徳太郎君、両君を指名いたします。  
こゝに於て異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって決定いたしました。  
会期の決定を行ないます。

本臨時会。会期について議会運営協議会の意見は、本日  
一日ということでありま。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって会期は一日  
と決まりました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

二より市長の本臨時会招集の条件について説明を求め  
ます。

(市長登壇)

市長(本間譲君)本日ここに第三回臨時会をお願ひいたわ

けでございすが、議員の各位におかれましては、悪天候の  
 かりから、御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。  
 いまーた、

審議を願います。議案は昭和三十九年度、国民健康保険  
 特別会計の繰り上げ充用に関しまして、昭和四十年年度の  
 補正予算でございす。これは去る三月の議会で申し上げ  
 げましたとおり、緊急な医療費の増加、加えて、制度上  
 の改正によりまして、給付費が前年度に比較して五一％  
 上昇してゐる現状でございす。

一方、財源措置として見込んで国庫補助金の交付率が  
 予想より低く九七％を見込んでありますが、八二％の決定となり  
 従つて、ここに五百六十四万余円の不足を生じた結果となつ  
 たのでございす。

この不足額につきましては、昭和四十年年度予算から繰



リ上げ充用をもつて補てんしようというものでございます。

二つが見合の財源としましては、昭和四十年年度において追加交付  
される予定でございます。なお、御不明の点がありまうたら  
関係課長をして御説明申し上げますからよろしく御審  
議のほどをお願い申し上げます。

議長（黒川佐太郎君） 日程第一議案第四十三号を上程いたし  
ます。

（書記朗読）

議案第四十三号 昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会

計補正予算（第一号）

保健衛生課長（池田亮山君）御説明申し上げます。

本案は三十九年度国民健康保険特別会計におきまして  
出納関係期日と目前にいたしまして遂に五百六十四万一千  
円、不足を生ずる見込みとなり、昭和四十年年度

の会計から繰り上げ充用措置を講ずるためにお願い  
申し上げる次第でございます。

三十九年度決算見込みにつきましては別紙に資料として  
提出してございますので、この資料で御了承願いたいと思ひ  
ます。

歳入決算額におきまして一億一千九百八十六万七千八百八十九円  
の見込みでございます。それに対して歳入の決算見込み  
額は一億一千四百三十二万七千六百三十八円でございます。

従つて差し引き五百六十四万二千五百五十九円程度の不足が生ずる  
見込みでございます。この不足を生じますおもな原

因と申しますと、国庫支出金が過ぎる三月、補正予算  
のときに御審議をいただきます。この額ははるかに下回わり  
まゝで、この表にございますように八二%程度の交付率に  
なつたわけでございます。これが大きな原因と相まりて支払

いに支障をきたしたというわけでございます。

三十九年度の国保会計におきましては以上の国庫支出金未交付がおもな原因でございます。実質的な国保会計の不足分と申しますと千九十一万四千円程度が実質的な赤字となる見込みでございます。こゝをこゝ歳入の九款にございませうように一般会計繰り入れ金を二百二十七万三千円、それから預託金の三百万円を取りくずしまして、なお繰り上げ充用金の五百六十四万一千円、合わせまして千九十一万四千円程度が実質的な赤字といたわけでございます。

なお、国庫支出金の交付状況でございますが、まず、事務費におきましては、年度内交付率が九七・九％でございます。

次、療養給付費の負担金八二・一％、こゝ表をみて参りますと、療養給付費負担金として確定をいたしました

ものが四千二百六十七万一千円でございます。

そのうち三十九年度の年度内に交付さいますものが三千五百三万五千円でございます。従って申請額に対して、八二・一％の交付率となつたわけでございます。こゝも去る三月の補正の際に四千百三十九万円の交付を見込んでわけてございます。

次に実績精算額でございますが、こゝは三月の診療者払い分を精算いたしまして、実質的に交付さいる額は四千三百四十二万四千円余が交付さいるわけでございます。

従つてその差額の三十九年度の交付さいるべきもので、四十年  
度において追加交付さいるものが八百三十八万九千円余と  
いうことでございます。こゝを本充用、補正予算の財源  
といたしまして、補正予算を編成したわけでございます。  
なお、療養給付費負担金は、負担金でございますので

必ず政府が交付するものでございます。なお、この間、国保  
の現況に對しまして、全国市長会、或いは全国国保連合会、  
各種の保険団体等、あけて、国に對して要請をしておるわけ  
でございまして、その参考資料が一番最初に提出してござい  
ます。こゝによつて、やゝ承願したいと思つたわけでございま  
す。なお、政府が申しておりますところ、三十九年度の不足交付額に  
對しまして、考え方は四十年度の療養給付費等の交付につ  
きましては、すでに四十年度の第一四半期分の交付がなされて  
ゐるわけでございます。従つて、国におきましても、全国において、  
当市のような状態を相当数、見受けられますので、この処置  
につきましても、国も相当、本腰でこゝに向かつてゐるということが、  
考えらるゝわけでございます。以上、御説明申し上げまして、本  
案の説明にかえさしていただきたいと思つたわけでございます。  
議長（黒川佐太郎君）本案に對する質疑願ひます。

・三五番(荻生田七郎君)本案につきましてもはなむを得ないやりくりでございしますから一応了といたしますから、関連してお伺いしておきたいことは、この市財政的に若勞して経営しておる。一方目的はいわゆる健康保険でありますから、一般大衆には、市民には非常に關心深い問題でございします。

従つて現制度の七割給付というのは被保険者にとりまては、ありがたき措置でございします。が、この際、お伺いしたいことは、この市財政の實態に、かんがみまして、この七割給付というものが、持続でき得る財政的基盤というものを、確信を持て持続できるとお考えか、どうか。それから、第二問は、いわゆる五割給付といふ七割給付といひますけれども、これは、市が財政によつて監督官庁が一つ、規制を持っておるか、どうか。地方自治体が任するに、このパーセンテージをきめらるるものであるかどうか、この二点につきましてお伺いしたいと思ひます。

・保健衛生課長（池田亮山君）第一点でございますが、私担当者といひまゝして七割給付はここまで参つた以上、いかなる方法を講じてでも、やり遂げなければならぬ仕事だと考えておりますが、なぜならば、七割給付をやることにすりまゝして、保険財政は確かに若くなつて参ります。トカー、これは、被保険者と保険者と国とが三者合體となつて、この財政を突破していく必要があるにだ。今、御質問の中にございませうに、千円、医療費に対して、まゝ三百円持つていけば、確かに医療を受けるわけでございます。この際、ぜひとも、国々相当の補助もあることでございますので、実質的に館山市民に及ぼす影響は莫大なものであらう。かまうに考えて是非行なうべきであると考えます。

それから七割給付は、自治体、そのものできめるかという御質問でございますが、現在の段階におきましては、七割給付、



五割給付。これは任意でございます。一か。当市におきましては、すでに七割給付を実施しております。

なお、国におきましても、四十年の計画を立てまして七割給付に踏み切つて早速七割給付が法定給付の現状になるということを私たちは考へております。

・三五番(松本藤太郎君) 五百六十四万一千円、繰り上げ充用ですが、中をみますと、保険税も二百万以上不足しておるよう thinking 思われますが、保険税の徴収について教えていただきたい。

それから、今一つ、ただ今、御答弁で非常に安心といますか。というものがはつきりと私には出てこない。ということは、今、七割給付にして保険財政が今後完全にやつていくるかどうか、貧弱な市におんぶういていってはいけないうで、質問があつたんですが、これに対して課長さんは、市と加入者と国とやつていくのだといひますが、現年度、三十九年度に



對してさえ当初見込んだ金すらもない。一かも七割給付は  
国で指定した年度に館山市は早くやつたわけではない。

七割給付をしてゐる館山市で一かも医療費が上ったという  
現実に対しても、国庫支出金が非常に少ない。六百三十万少  
なかつた。三という事で、期待が持てるかどうかということが  
まず考えらる。今年度は三月末でもつてこれだけのもうが  
不足してゐる。五百六十四万の繰り上げ、預託金も相当の  
数が出てきてゐる。四十年度になつて税金に一カ年開や  
つていた場合に当然千五百万円というやうな予備的な一般  
財源から持つていくということになつてゐるけれども、どうして  
いでは足りないのではないか。三というふうに考える。

四十年度には税金にくるとおっしゃいますが、三十九年度  
の国庫支出金の不足額というものが、四十年度にくることと  
期待してよろしいやうでございますか。それと最初申し上げ

げまゝに保険税が二百万円以上も差があるようでござい  
すが、この内容について教えていただきたい。

。収納課長(多田俊一君)ただ今、第一点の保険税の徴収状況につ  
きまゝて御説明申し上げます。

御承知のとおり、我々、収納課といひまゝては、努力いたして  
あるわけでございますが、五月三十一日までのものにつきましては、  
はつきりとした数字はつかめませんが、概略つかひまゝて御  
報告申し上げます。

なお、その前に四月三十日の収入状況を申し上げますと、保険税に  
おきまゝて調定四千五百十万円に對し、まゝに入つたものが四千八  
十萬四千円、約九〇・五八%になっております。

五月三十一日現在保険料、これが調定に對し、まゝて八百  
八十五万に對し、まゝて一二・九二%入つております。

それから、予算に對し、まゝては、大体保険税におきまゝて

四千三百四十四万三千円に對し、まして四千八十万四千円・九〇・五八%  
が四月末の状況でございます。

保険料の場合には、予算において九十五万七千円、これに對し  
まして、百十萬八千円、予算に對して百一五%、こういう四月  
末の現況でございます。

五月におきましては、大体私の方で五十万とみまゐりますが、二十六日  
まで五十八万二千円入っております。そうしますと、収入統計  
で、調定額に對して九一・八七%、昨年は九二・九%で現状  
におきましては、一・〇三%減ということになっております。

予算に對し、ましては九五・三七%という事が五月現在、う状況  
でございます。大体状況を御報告申し上げます。

保健衛生課長（池田亮山君）第二点の見込み、まゐりた歳入財  
源が、確実に補助金はくるのかということでございますが  
、これは負担金でございますので、確実に参る数字で

ございます。従つてここに財源としてまゐりましたものは三十九年度において政府の予算に若干のあまさがあったものではなかつたということが私たちには言われるわけでございます。

その差が政府が税金に補正さしておつたならばこの金額は年度の当然の交付される金額であつたわけでございます。

従つて国の交付が年度を越えてずいがあつたわけでございます。

四十年度におきましては政府も相当關心を持つておりますのでこういったことはすべて得らるであらう。かように考へてゐるわけでございます。

三五番(松本藤太郎君) 調定額が四千五百十萬なんですけれども、九五%の徴収率だそうであつたら、残りは一全額見込さう

ないものですか。それとも見込みが可能なものもこの中に  
まだ残つてゐるか。どうか。その点、参考までにお聞かせ願ひ  
たい。

それから国庫支出金ですが、これは負担であり補助で  
ある。その率が国できめてしまふ。だから、そういう点  
で国できめた率によつて市としては、こういう支出をして  
わけです。

国が指示した。きめて参つた。市町村に公約してある。そ  
いだけのもを合せなかつたということになる。そういうふう  
にやる。その点について。

・保健衛生課長(池田亮山君)療養給付費負担金で  
ございますが、これは療養費の総額の二五%を交付  
することに規定されております。

これは確定に交付されるものでございます。

ただ国といつては二五％の算定の際に医療費が伸びますと、二五％の交付すべき額に予算額が不足をきたすために九〇何％、八〇何％という年度別の交付が減るということになります。一〇何％の交付は間違いないと思います。

・収納課長(多田俊一君)未納金につきまして徴収可能かどうかという御趣旨だと思いますが、大体三十九年度は保険税に對しましては、現在四百二十四万六千円でございます。

四月末ですから五月に五十万入っておりますので、三百五十万位残ることになります。また、細かい個人個人に当たっては、はっきりした調査はできておりませんので、お答えいかねますが、徴収可能なものというふうになるわけでございます。

それから保険料につきましては、現在未納額が七百四十七万

います。

二の中にはすでに三十七年度の時効分約二百万円が含まれております。三十八年度分も、残っておるわけでございます。我々といひまゝでは、できるだけこゝも徴収いたしたいというふうに考えております。

・三五番（松本藤太郎君）よくわからぬんですが、療養給付費の負担二五〇〇といいますが、五割給付するとき率だ。一かも医療費が上り七割給付をやておるといふ事実に対して、こういう最初、予算よりも少い金にかかるといふことに対して非常に不安を持つ、こゝをここでいつても仕方がない。保険の赤字財政も市、一般会計から入つてということとは、真の国保財政の立てかねないはならない。どうしても国において措置しなければならぬ問題であります。でありますので、是非当局として、そういった面にも遠慮しないでびくび

くしないで、会議や議会をとらえて若表を訴えても  
らいたい。このことを是非お願いいたしまして了解いたし  
ます。

一八番(西村真次君)一つだけ伺いますが、三十九年度の最  
終的な数字であるか、どうかということ。なお、こゝが負  
担金であるから必ず入るというお話であります。そ  
う入る時期は見通しはいつ頃か、また、こゝが先に伸び  
ることによつて再度補正が必要を生ずるようなことが  
ないかどうか。この点をお伺いしたいと思ひます。

・保険衛生課長(池田亮山君)お答え申し上げます。決算見  
込み額は現在とあと幾日も残っておりません。従つてほ  
んど確定的なものでございます。

なお、こゝが交付等々時期でございますが、来月の五日に  
精算申請をするわけでございます。ここにあります実績



精算額、数字がそれに相当するわけでございます。

六月に申請を行ないます。変更申請を行ないまして確定したものが交付になるんですが、実質的にこのものに対する交付は従来々交付う方法と申しますと翌年度うほとんど年度末でございます。ただ、今全国市長会に対する政府の回答もありますように、ゆき年度も補助金に對しまして早急に交付してゐるわけでございます。すでに千九百万円程度、第一期交付額がなされてゐるわけでございます。こゝは、例年に比較いたしますと一カ月以上早く交付されてゐる現状でございます。従つて、この精算によりますと、この交付もおそらく例年うような年度末まで交付されることはあり得ないであろうということも私たちは考へております。

一八番（西村真次君）　そうしますと、再度補正を要するような

ことはないのであるというお答えになるわけでございますね  
 保健衛生課長（池田亮山君）四十年年度の予算につきま  
 ては、これは現在見込んでおります療養給付費が現  
 在の見込よりも相当の伸びがきた場合に補正もやむ  
 を得ないかと考えます。一か一三十九年度は、これをもっ  
 て確定的な数字と考えております。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）御質疑なしと認めます。

本案に対する質疑は、これにて打ち切り討論省略原案  
 通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）異議なしと認めます。よって本案は  
 原案とおり可決されました。以上をもちまして本臨時  
 会を案件は議了といたします。よってこれにて臨時会を

開会いたします。

午前十時四十三分

開会

本日の会議に付いた事件

一、議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 憲太郎

関 武 夫

西村 真次

藤 田 好 治

保科 忠 夫

江 田 徳 太 郎

君 塚 喜 三

中 村 省 吾

島 野 茂 樹 郎

萩 生 田 七 郎

鈴 木 孝

嶋 田 繁

山 田 教 字

鈴 木 市 蔵

安 藤 亀 吉

安 沢 徳 順

三 沢 節

高 橋 文 治

松 本 藤 太 郎

山 口 康

欠席議員

安 西 益 男

山 本 昇

昭和四十年五月二十七日

右会議の次第を録し、三三に署名す。

館山市議会議長

黒川 隆吉

同 署名議員

西村 喜次

同

江田 徳子

